オーストラリア・クイーンズランド州における大学入学者選抜制度

－中等学校側の評価資料の利用システムに焦点を当てて－

（研究紀要№25）

山村　滋

はじめに

本稿は，高等学校（中等学校）側の評価資料の利用という点で，最も先進的なものの一つであると考えられるオーストラリアのクイーンズランド(Queensland)州における大学入学者選抜制度を，選抜資料の利用システムに焦点を当てて明らかにする。

1．選抜資料

1.1　選抜資料

クイーンズランド州では，選抜資料として，主に以下の3点が利用される。

①後期中等教育（year 11，year 12）の2年間に履修した科目とその履修期間及びその成績

②オーバーオール・ポジション(Overall Position：OP)

③フィールド・ポジション(Field Position：FP)

また，直接の選抜資料としては，利用されないが，OPとFPを算出するために利用されるテストで，中等学校から直接，高等教育へ入学を志願する者は全員受けなければならないテストとして，クイーンズランド・コア・スキルズ・テスト(Queensland Core Skills Test： QCS Test)がある。

1.2　後期中等教育の2年間に履修した科目とその履修期間及びその成績

大学入学志願のためには，クイーンズランド州後期中等教育・教育課程・評価委員会(Board of Senior Secondary School Studies Queensland: BSSSS)の認定する科目(Board subjects，以下「認定科目」とする)を，後期中等教育の2年間の間に次のように履修しなければならない。

クイーンズランド州の中等教育は，前期・後期のセメスター制がとられているが，少なくとも3科目を2年間，すなわち四つのセメスターにわたって履修し，全部で，20セメスター分の履修が必要なのである。なお「認定科目」は，1996年度に中等学校最終学年を終える生徒の場合，52科目である。

各科目の成績は，5段階で評価される。また，各科目に関しては，詳細なシラバス（教授要目）が作成されている。これは，どこの中等学校でも同じ教育内容を提供し，同じように成績評価がなされるためには，必ず必要となるものである。

各科目の成績評価が，選抜情報の基本となり，各科目の成績評価は，州内での比較可能性，一貫性を確保するために学校間の成績の調整（moderation)がBSSSSによって行われる。このような5段階のスケールは，大学入学者の選抜には，粗すぎて役にたたないので，更に細かくする必要がある。選抜情報として利用される尺度が，OPとFPである。

1.3　OP及びFP

OPとは，各生徒の後期中等教育で履修した科目の成績(最も良い成績の5科目)をもとに，各生徒の学力が，州全体においてどこに位置付くかを示すものであり，25段階で表示される(1が最上位)。つまり，総合学力の指標である。

FPとは，各生徒に関しての，知識・技能に関する5つの評価領域別の指標である。各科目は，その科目の内容・性質によって，5つの領域別に，それぞれの固有の重みが定められている。

1.4　尺度化の手続き

尺度化の手続きはいささか複雑であるが，概略は以下の通りである。まず，科目担当の教師が先述した各科目の評価の5段階の成績毎に生徒に順位をつける。次に，(14名以上の場合)最上位の生徒を400，最下位の生徒を200として，科目成績(SAI)を定める。それを元に，科目選択の影響を除くための学校内での尺度化と学校間格差を除くための学校間での尺度化が行われる。学校内の尺度化においては，QCSテストの結果を利用して，異なる科目のSAIが比較できるように尺度化される。これを尺度化SAI(Scaled SAI)と呼ぶ。そして，各個人毎に上位5科目の尺度化SAIが平均され(OAI)，その値が学校間で尺度化される。学校間の尺度化にも同様にQCSテストの結果が用いられ，得られた値は尺度化OAI(Scaled OAI)と呼ばれる。OAIの値から，最終的に25段階のOPの値が定められるのである。

FPの場合もOPと本質的には同様であるが，QCSテストのうち5つの各領域に関係する部分だけが用いられる，上位の科目から当該領域への重みが合計15になる分だけ用いられる，学校間の尺度化は行われない，という違いがある。

1.5　QCSテスト

各科目の学内成績を，OP及びFPに変換するためのテストが，QCSテストである。「QCSテストは，シラバスに基づいた，クイーンズランドの後期中等教育カリキュラムの49の共通要素

(Common Curriculum Elements: CCEs)に関する生徒の到達度を測る」カリキュラム横断型テスト(総合学力テスト)である。

QCS テストの問題は，①エッセイ，②多肢選択式問題，③短答式問題，の三つの種類から構成されている。

1.6 共通カリキュラム要素 (CCCEs)

QCS テストは，CCEs に関する到達度を測るテストである。CCEs は，クイーンズランド州の「認定科目」のシラバスのうち，二つ以上のシラバスに共通して存在する要素である。紙と鉛筆という形式のテストで測れる要素は，49である。

2．選抜のプロセス

それでは，1．でみたような選抜資料を利用してどのように選抜が行われるかをみてみよう。まず，大学側の提示する履修要求科目とその履修期間及びその到達水準についての条件を満たしているかどうかが問われる。履修を要求される科目は，1科目ないし2科目の場合が多く，また，その到達水準は中程度の場合がほとんどである。次に考慮されるのが OP である。つまり，OP が上位のものから定員まで合格としていく。さらに，OP が同じ場合は，あらかじめ各大学の各コースが定めてある FP の良いものから合格者が決定される。このように，総合学力によって合格者を決めたあと，ボーダー層では，5つの評価領域のうちの特定の領域の評価に基づいて合格者が決定される。これで合格者が決まらない場合には，各科目の成績などが利用される。

おわりに

クイーンズランド州の大学入学者選抜制度では，50以上もの「認定科目」の成績をもとにして，選抜がなされているのである。その際，中等学校での各科目の成績を QCS テストという尺度化のための総合学力テストを利用し，OP・FP を算出することによって，選抜資料としているのである。

クイーンズランド州の選抜制度の特徴は，以下のようにまとめることができよう。

第一に，中等学校での多様な科目の選択が可能になっているということである。

第二に，大学入学者選抜に関係なく，中等学校の成績の評価自体が，科目ごとの成績の比較可能性と信頼性を保証できるようになっているのである。それは，BSSSS によるシラバスの開発，「認定科目」の提供についての各学校単位での承認，さらに，学校間の成績評価の比較可能性を担保するための調整，といったシステムによって支えられている。

第三に，科目間の比較可能性に関しては，QCS テストを利用した科目間成績の調整システムによって保証されている。別の言い方をすれば，科目選択における有利・不利を生じさせないという意味での選抜の公平性を確保しながら多様な科目選択を可能にするのが，QCS テストを利用した科目間成績の調整システムなのである。

第四に，QCS テストは科目間の成績の調整に使われ，このテストの成績自体は，直接の選抜資料とはしない，という点で，共通テストの影響力を小さくしようとしている点も見過ごしてはならない。

第五に，高等教育からの要求は，履修要求科目の設定をとおして反映されるシステムである。個別大学の個別のコースは，定められた特定の科目を履修し，特定の水準に到達することを要求している。ただし大学からの要求は，大抵の場合，1科目もしくは2科目で，その到達水準も中程度の水準である。

第六に，多様な選抜資料・情報が用いられている。特に，総合学力の情報だけでなく，FP を利用することによって，選抜制度という競争的なシステムに，個々人の適性あるいは能力の特徴も評価対象とする工夫がなされているといえよう。

第七に，各科目や QCS テストの評価結果，及び OP・FP の値についての不服申立の制度と大学不合格者に対する各大学への不服申立の制度といった，選抜の透明性を支えるシステムが工夫されているのである。

付記

本稿の「1.4　尺度化の手続き」の箇所は，紀要執筆後の，試験方法研究部門・平直樹助手との議論を踏まえたものである。